

登録コード	MA751214	開講年度	2026				
授業科目名	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸)					担当教員	安尾 将法
英文授業名	Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation					副担当	
単位数	10	講義期間	通年	曜日・時限	不定期	対象専攻／学年	病因・病態検査学領域／2年次
講義室				授業形態	演習	授業科目区分	必修科目
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄						
	MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学)						
	【研究科共通】医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。					⇄	閉塞性肺疾患の代表疾患である喘息、COPDを通じて、診断や治療における諸問題を解決できるようになる。
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。					⇄	臨床の現場で患者さんを相手に正しく診断や治療を行うことについての基礎から応用までの実践が理解できるようになる。
	【保健学】保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。					⇄	現在残されているアンメットニーズを的確に捉え、これを解決するための方策を説明でき、研究を推進することができる様になる。
(2)授業の概要	指導教員の専門分野である慢性閉塞性肺疾患，気管支喘息に関して，研究テーマを与える．与えられた研究課題について多くの文献を読み、研究の目的を見つけ，この目的を達成するための方法を組み立て，知識と技能を習得し，生体飼料・生体情報を取得．結果に対して解析をおこない，考察する．最終的には修士論文としてまとめ提出する．これが授業の概要です．						
(3)達成目標（一般学習目標G I O）	与えられた研究課題に対して，倫理的配慮の元，専門的知識と技術を習得して研究課題を遂行し，健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する．また，その成果を発表し，修士論文としてまとめることができる．						
(4)達成目標（個別行動目標S B O s）	与えられたテーマについて， 1．検査あるいは実験を行うにあたって，英文を含む論文，文献を読破し，何が解明されていないのかといった背景を明らかにし，これに基づいて研究の目的を明らかにする． 2．この目的を達成するための条件・状況，対象数，方法について計画を立てる． 3．倫理委員会への申請書を提出して承認を得る． 4．被検者に対して十分な説明をおこない，書面でインフォームドコンセントを得ることができる． 5．検査あるいは実験を世界的な標準法で自らおこなうことができ，再現性，信頼性が得られる． 6．実験あるいは検査にてデータを取得し，管理，集計および統計学的分析ができる． 7．結果に対して多くの文献を参考にして考察ができる． 8．論文としてまとめることができる．						
(5)授業計画	開講日時は受講学生と検討のうえ決定する． 1）研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる． 2）計画にそって実験および調査を実施する． 3）実験や調査結果をまとめ，その結果を評価・考察する． 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる． その成果を学会等において発表し，最終的には修士論文としてまとめる． 教員は，討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする．						
(6)授業の進め方	自ら，研究を遂行する過程でアドバイスを与えながら教育する． 指導教員とのマンツーマンのdiscussionと学外の専門家とのdiscussionでおこなう． 毎週必ず水曜日の19時に安尾研究室（南校舎3階）に来て，与えた課題に対して報告をしてもらい，質問・助言・今後の方針と課題を与える．授業以外は全て実験・データ収集、関連する論文の読破に充て、研究会および関連学会に出席すること．						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	呼吸器疾患、特に慢性閉塞性肺疾患，気管支喘息，間質性肺疾患，気道系疾患に関して，その病態と診断解析方法を講義および実習でおこなう．事前にスライド原稿を提供し，予習2～3時間おこなう．参考書は適時伝える．研究課題については自ら多くの関連する文献を検索し知識を習得する．方法についての実習は教官が指導する．いずれにしても自ら積極的に学び実行していただく．勿論分からないことはいつでも相談にのる．講義がない時は，毎週必ず水曜日の19時に安尾研究室（南校舎3階）に来て，与えた課題に対して報告をしてもらい，質問・助言・今後の方針と課題を与える．授業以外は全て実験・データ収集、関連する論文の読破に充て、研究会および関連学会に出席すること．従って事前事後学習はおおよそ毎日8時間から10時間が必要となる．						
(8)成績評価の方法	与えた課題に対して，1）背景を分析し目的を明らかにすることができる．2）研究計画を立てることができる．3）研究計画達成のための方法および技能を習得できる．4）被検者および研究計画に倫理的配慮ができ倫理委員会に不備なく書類を提出できる．5）被検者に十分な説明とインフォームドコンセントが得られる．6）検査、実験をみずから行いデータを収集できる．7）得られたデータを解析、分析ができる．8）結果をまとめ統計学的処理ができる．9）結果をまとめ図、表に出来る．10）結果に対して考察が出来る．11）修士論文にまとめることができる．各項目10点ずつ．						
(9)成績評価の基準	上記（7）成績評価の方法の評価項目の合計点にもとづき，判定基準は，90-100点(秀)，80-89点(優)，70-79点(良)，60-69点(可)，60点未満(不可)とします．						

(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	指導教員と共に行う研究であり、疑問に思ったり、質問があれば遠慮することなくいつでも質問、相談が可能であるが、まずは自分で勉強して考えることが重要。 質問や相談については、事前にアポイントメントを取って下さい。その上で、研究室（南校舎3階）にて対応します。メールアドレスは（yasumasa@shinshu-u.ac.jp）です。
【テキスト、教材、参考書】	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説